

# 知識探訪

多民族社会の横顔を読む  
協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

## ロケットは月に着陸できるか？総選挙での野党連合の発展

篠崎香織（北九州市立大学准教授）

5月5日の下院議会と州議会の投票日に向けて、マレーシアでは熱い選挙運動が繰り広げられている。マレーシアの選挙制度が日本のそれと異なる点の一つに、投票用紙の様式がある。マレーシアでは投票用紙に候補者の名前とシンボルが印刷されており、支持する候補者に×印を付ける。そのため候補者は名前とシンボルを全面に押し出して、有権者に支持を訴える。

シンボルは選挙委員会が事前に定めた絵（身近な動植物や日用品）の中から選ぶことになっているが、政党が事前に申請し同委員会が承認すれば、政党のロゴを使うこともできる。ただしそれには条件がある。政党は結社登録局に登録を認められていることと、政党のロゴの使用を承認する政党からの文書を候補者が選挙委員会に提出することである。

このシンボルをめぐる、公示日（4月20日）直前にひと騒動あった。そこでは、マレーシア政治に関するこれまでの「常識」があまり当てはまらない様相がうかがえた。

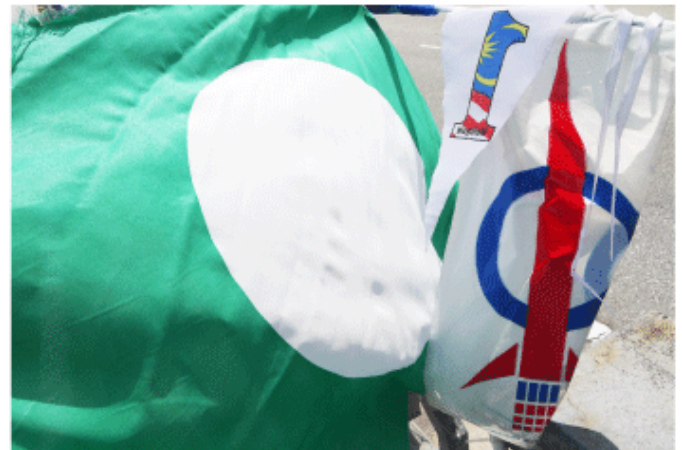
今回の総選挙は、マレーシア史上初の政権交代もありうるとして、内外の強い注目を集めている。これまでは、野党が幅広い支持を獲得し政権を奪取する可能性は低いとみられてきた。全マレーシア・イスラム党（PAS）がマレーシアのイスラム教国化を掲げているため、PASおよびPASが人民正義党（PKR）と民主行動党（DAP）とともに結成している野党連合・人民連盟（PR）は、華人など非ムスリムの支持を得にくいと言われてきた。実際に過去には、PAS、国民正義党（Keadilan、PKRの前身）、DAPなどが野党連合・代替戦線（BA）を結成したものの、PASがマレーシアのイスラム教国化を志向する論調を強めたため、華人を主な支持層とするDAPがBAを脱退した経緯があった。華人はPASを支持せず、野党連合にPASがいる限り華人は野党を支持しない。こうした「常識」に基づき、与党連合・国民戦線（BN）は今回、「DAPへの一票はPASへの一票、賢い選択を」という華語の広告を打ち出した。

この「常識」があまり有効であるように見えない、シンボルをめぐる今回の騒動は、4月18日にDAPが結社登録局から衝撃の通告を受け取ったことから始まった。その内容は、2012年12月に行われた同党の党役員選挙に問題があると思われるため、現在の党役員を認めないというものであった。この通告は、党のロゴの使用を認める文書をDAPの書記長が候補者に発出しても、書記長が党役員の一員であることからその文書が無効とされうる可能性を示していた。そうなればDAPの候補者は、1960年代から掲げてきたロケットをモチーフとする同党のロゴではなく、選挙委員会が定めたヤカンやらネクタイやらのシンボルの下で、あたかも無所属の候補者のように、DAPという政党など存在しないかのように、選挙を戦わねばならなくなる。

こうした状況の中でDAPは、PASやPKRと協議したうえで、DAPの候補者は党のロゴがシンボルとして使用できない場合、半島部では月をモチーフとするPASのロゴを、サバとサラワクでは目をモチーフとするPKRのロゴを、自身のシンボルとすることを決定した。

このことが発表されるや否や、交流サイト（SNS）やインターネット上に華語の書き込みが多数現れた。テレサ・テンの名曲「月亮代表我的心（月が私の心を映す）」を引用したり、「ロケットはついに月に着陸した」などと言ったりして、DAPの候補者がPASのロゴを使用することになってからもそれを受け入れるよう訴える声があつた。BNの新聞広告「DAPへの一票はPASへの一票」には、「確かに賢い選択だ」、「宣伝してくれてありがとう」などのコメントが書き込まれた。PASの精神的指導者ニック・アジズが「党のロゴを些細なことと思う人もいるが、ロゴは党の闘争とプライドを表しているのだ」と発言しDAPに同情を示すと、この発言がネット上で急速に拡散され、ニック・アジズを賞賛する声があつた。

結社登録局は最終的にDAPにロケットのロゴの使用を認め、騒動は一応収まった。その後に残ったのは、“ロケット”と“月”の接近であった。マレーシア政治の「常識」はもはや有効性を失ったのか、今後の展開が大いに注目される。



< 筆者紹介 > 1972年、千葉県生まれ。東京大学大学院総合文化研究科修了。学術博士。在マレーシア日本国大使館専門調査員などを経て現職。専門はマレーシアの地域研究で、民族間関係を研究している。日本マレーシア学会運営委員。企画・編集に携わった『地域研究混成アジア映画の海-時代と世界を映す鏡』13(2)が4月に刊行。